

サービス系技術SWG 活動方針

KDDI研究所、磯村 学
富士通研究所、前田 潤
沖電気工業、山本 高広
KDDI研究所、山田 秀昭
情報通信研究機構、井上 真杉
日本電気、小林 中
日立製作所、矢野 正

サービス系技術SWG 活動方針(1)

- 技術名(1) FMC環境におけるサービスリソース制御技術
 - 検討内容: FMC環境において、NGNならびにインターネットで提供される多種多様なサービスを利用するために必要なアプリケーション、アクセスネットワーク、端末などのリソースの制御を、端末が高速で移動した場合でもセッションを切断することなく、またQoS、セキュリティレベルを損なうことなく、通信事業者の垣根を超えて実現するためのネットワークアーキテクチャならびにプロトコルを開発、標準化する。
 - 活動方針: 現在、ITU-Tにおいて、FMCサービスはNGNのRelease 2として要求条件に関する議論が始まっていることから、まずはFMCサービスの定義、分類ならびに要求条件に関する検討を行い、その結果を提案していく。次いで、具体的な方式検討を実施する。また、3GPP、3GPP2、OMAなどの動向も常時確認していく。さらに、IPTVの標準化動向を睨みつつ、放送サービスを含めた融合サービスの検討、標準化提案も進めていく。
 - 最終目標: NGN Release 2の完成が予想される2008～2009年度中に、ITU-Tでの標準化を目指す
 - 2007年度マイルストーン:
 - 4～8月: FMCサービスの整理ならびに要求条件に関する検討
 - 9月: GSI会合にてFMCサービスの要求条件の提案
 - (1月: GSI会合にてFMCサービスの要求条件の決定)
 - 10月～: 方式検討
 - 活動頻度: 原則として月1回の会合を行い、作業量によって適宜頻度を調整する。

サービス系技術SWG 活動方針(2)

- 技術名(2) プレゼンス・コンテキスト共用システム相互接続技術
 - **検討内容:** プレゼンスやコンテキスト情報を、異なる事業者間ならびに事業者 - サービスプロバイダ間で必要に応じて共通に利用するための基本技術、総合接続技術の確立および検証を行う。
 - **活動方針:** 現在、キャリアを中心に携帯電話を利用したプレゼンスのサービス活用の推進が行われており、OMAでの標準化も進んでいる。一方、交換機メーカーなどは内線電話を使ったローカルでのプレゼンスを提供しており、今後センサ技術の普及に伴うモノのプレゼンスなども加わると、3Gエリアと各ローカルエリア間でのプレゼンスの相互連携の必要性が高まってくる。今後のサービス動向を調査すると同時に、具体的なサービスの検討、および標準化を進めていく。また、平行してネットワークにおけるコンテキストの交換についても検討を進めていく。
 - **最終目標:** プレゼンスの相互連携について、2008年度末までにITU-Tへの提言、2009年度からの標準化検討を目指す。
 - **2007年度マイルストーン:**
 - 4～8月: プレゼンス連携の要件整理
 - 9月: プレゼンス相互連携の要求条件の提案
 - 11月～: 方式検討
 - **活動頻度:** 原則として月1回の会合を行い、作業量によって適宜頻度を調整する。

サービス系技術SWG 活動方針(3)

- 技術名(3)トランザクション型アプリケーション通信技術
 - 検討内容: RFIDによるトレサビリティサービス、センサノードを利用した遠隔監視、e-コマースによるDBトランザクション処理など、トランザクション型のトラヒックをNGNにおいて收容する場合、ショートパケットの増加、リアルタイム性の確保、低パケットロス、通信の即時開始など、品質への要求がさらに厳しくなると考えられる。このため、NGNにおいてトランザクション型の通信を行うアプリケーションからのトランスポートストラタムに対する要求条件やANI、UNIについて検討、標準化する。
 - 活動方針: ITU-Tにおいて、RFIDやセンサNWの收容はNGNのRelease 2または3として扱われていることから、まずは要求条件の検討ならびにアーキテクチャの整合性について、JCA-NIDでのNIDの要求条件、モデルの議論を元に確認を行う。トランザクション通信については、トランスポートに対する要求条件を調査し、必要があれば前倒して提案活動を行っていくとともに、詳細方式の検討を促す。
 - 最終目標: NGNにおけるRFIDやセンサNWの收容については、201X年にITU-Tでの標準化を目指す。トランザクション通信については今後の検討結果による。
 - 2007年度マイルストーン:
 - 4～3月: トランザクション通信の要求条件についての検討
 - 活動頻度: 原則として月1回の会合を行う。

サービス系技術SWG 活動方針(4)

- 技術名(4) 端末の保守運用プロトコル技術
 - 検討内容: NGNに接続されるマルチメディア端末、ホームネットワーク端末において、接続性・利便性の向上の他に、安全性・信頼性の確保を図る為、UNI端末で障害が発生した際に、網から実施する端末の遠隔診断・ソフトウェア更新の他、攻撃脅威への防御、抑止を行う標準的プロトコルを開発する。
 - 活動方針: 現在、ITU-T等において、マルチメディアサービスの実施形態の一つとしてホームネットワークが話題となっている。また、その具体的なサービスとして、IPTVの標準化も急速に進んでいる。そこで、本活動では、ホームネットワークにおけるIPTVサービスをモデルとし、その保守運用のための要求条件の整理ならびにハイレベルアーキテクチャ・フレームワークの検討、標準化を進める。なお、現状では、その他の家電製品の個々の議論を行う事は考えていない。また、ITU-T、TISPAN、OMAなどの動向も確認し、本活動で標準化すべき対象、範囲を、別途判断する。
 - 最終目標: 2009年度末頃までに、ITU-Tでの標準化を目指す
 - 2007年度マイルストーン:
 - 4～9月: NGN網観点で端末の保守運用の要求条件の整理。
 - 10月～: 上記、アーキテクチャ、フレームワークの検討
 - 常時: ホームネットワーク及びIPTVの標準化議論の動向確認。
 - 活動頻度: 原則として月1回の会合を行う。

サービス系技術SWG 中期スケジュール

検討テーマ	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
技術名(1) FMC 環境における サービスリソース 制御技術	FMCサービスの 要求条件の整理・ 寄書作成(4~8月) △ (4月) GSI会合(9月) △	FMCサービスの 方式検討 (10月~) → FMCサービスの標準化 放送との融合サービスの検討	放送との融合サービスの標準化	
技術名(2) プレ ゼンス・コンテキ スト共用システ ム相互接続技術	プレゼンス相互 連携の要件整理・ 寄書作成(4~8月) △ (4月) GSI会合(9月) NWコンテキスト一次検討	方式検討 → ITU-T提言 △ NWコンテキスト二次検討	標準化 ITU-T提言 △ 寄書作成	ITU-T提言 方式検討 → ITU-T提言 △
技術名(3) トラン ザクション型ア プリケーション通信 技術	トランザクション通信の 要求条件の検討(4~3月)	トランザクション通信の 方式検討、標準化 RFID、センサNWのNGN 収容の要求条件の検討	RFID、センサNWのNGN 収容の方式検討	RFID、センサNWの NGN収容の標準化
技術名(4) 端末 の保守運用プロ トコル技術	端末保守運用の要件整理 (4~9月) → 端末保守運用のアーキテクチャの検討 (10月~) 標準化団体の動向 Watch	標準化の範囲・FeasibilityのStudy 判断 ▽	ITU-T標準化提案	実用化に向けた検討